



柏崎お仕事体験塾実行委員会 2025年 活動報告書



1 実施に至る経緯

お仕事体験塾の始まりは 2013 年「柏崎の子どもたちは将来の夢をもっている子どもが他地域に比べて少ない。なんとか子どもたちに将来を考えるきっかけを作れないか。」という、当時の柏崎市教育委員会教育長からのご意見を受け、2014 年に「柏崎お仕事体験教室」が生まれたことがきっかけです。

2016 年には「お仕事体験塾実行委員会」が独立の組織として誕生。「お仕事体験教室」から「お仕事体験塾」へと名称変更し、現在まで毎年 8 月第 3 日曜日（2020 年は新型コロナウイルスの影響で中止）に柏崎市内にて開催を続けてきております。

これまで様々な形式で開催してきたお仕事体験塾ですが、過去の開催内容と結果報告を考慮したうえで、「子どもたちがしっかりと学び、大人の想いにふれ、未来の柏崎刈羽を創る人材を育たるため」に開催していこうという結論に至っております。

これらを踏まえた上で、各体験を 1 時間と設定し、子どもたちが「自分の将来を考え、学びある時間にすること」「柏崎刈羽の大人の想いを子どもたちに伝えること」を主眼に置いた開催形式として実施させていただきました。

2 お仕事体験塾の必要性

以前から柏崎市においては人口の減少やそれとかかわる若者の働き手不足が喫緊の課題です。その中で私たちは、学校の先生方や教育委員会の方々と意見交換を進めた結果、職業体験を通して柏崎刈羽の様々な魅力ある職業に就く素敵な先輩と実際にふれ合う機会を作っています。

柏崎刈羽で働く大人の想いにふれることで、地元への愛着や誇りをもちながら、未来の柏崎刈羽を創る人材になってもらいたいと願います。そして、「未来の柏崎・刈羽を創りたい」と願う心が、社会人になってからの地元就職や、UI ターンのきっかけに、未来の柏崎刈羽につながるものと考えています。

また、本年で実行委員会設立から 10 年目の節目を迎えた本事業ですが、参加した子どもの保護者、出店者からお仕事体験塾は非常に有意義なので今後も継続してほしいとの意見が多数あり、柏崎刈羽の未来のために、本事業が地域の皆様にとってかけがえのない事業となってきました。

3 お仕事体験塾のねらい

「働く大人の想いにふれ、未来を創る人材を育てる」

- ・望ましい勤労観・職業観を身に付け、生涯にわたり生きる力を育む。
- ・出会った様々な大人の背中を見せることで、柏崎・刈羽を愛する心を育てる。
- ・地元の事業所が連携して未来を担う子どもたちの育成をする。

4 2025 年の主な活動

- (1) 体験型でのお仕事体験塾の実施
- (2) お仕事動画撮影・編集・ホームページでの公開（継続事業）
- (3) お仕事体験塾への賛同者を募る活動（協力金募集）

5 お仕事体験塾実行委員会 年間の活動内容

4 月	1 日	(火)	子ども夢基金 事業費支援内定
5 月	12 日	(月)	協力事業所の公募（柏崎日報 掲載）
5 月	12 日	(月)	協力事業所の公募（FM ピッカラ 放送）
6 月	17 日	(木)	出店事業所内定 & 各事業所と事業内容の打合せ
7 月	14 日	(月)	チラシ配布開始（小学校 4・5・6 年生）
7 月	21 日	(月)	申込締め切り（事前申し込み 115 名）
7 月	25 日	(金)	申込者全員の受入＋事業所へ切を決定
8 月	5 日	(火)	協力事業所への説明会（会場：第一中学校）
8 月	24 日	(日)	お仕事体験塾の事業実施

6 お仕事体験塾 当日の内容

- (1) 開催日時

2025 年 8 月 24 日（日） 8：30 ～ 16：00

- (2) 会場

柏崎市立第一中学校

- (3) 参加対象

柏崎市、刈羽村の小学校 4・5・6 年生

- (4) 参加児童生徒数

事前の申込者数 : 115 名 当日の体験者数 : 102 名

- (5) 当日の流れ

8：30 ～ 8：45	受付
8：45 ～ 9：00	始めの会
9：00 ～ 9：20	お仕事タイプ診断
9：20 ～ 9：40	抽選（1 回目）
9：40 ～ 10：40	体験（1 回目）
10：40 ～ 11：00	抽選（2 回目）
11：00 ～ 12：00	体験（2 回目）
12：00 ～ 13：00	お昼休み
13：00 ～ 13：20	抽選（3 回目）
13：20 ～ 14：20	体験（3 回目）
14：20 ～ 14：40	抽選（4 回目）
14：40 ～ 15：40	体験（4 回目）
15：40 ～ 16：00	終わりの会

7 お仕事タイプ診断

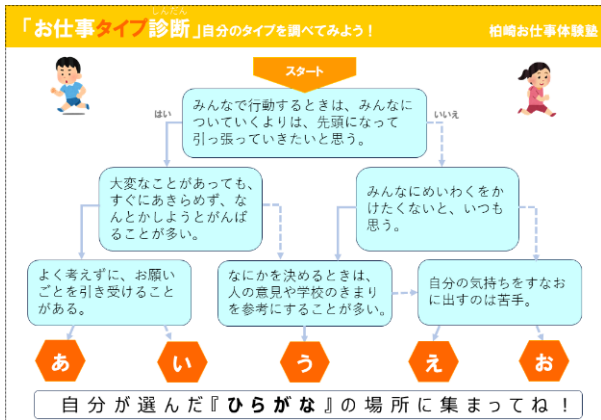
事業のはじめに自分の職業興味が分かるお仕事タイプ診断を始める会の冒頭に約 20 分程度導入しています。導入した理由は主に 2 つあります。

1つ目は、参加した子どもたちが体験する職業を選ぶにあたり、人気のある職業や、ただ華やかな職業を選ぶのではなく、自分の性格に合った職業を知ったうえで職業選択をしてもらうことです。また、体験したいと思う職業が分散することも想定しています。

2つ目は、友達と一緒に参加したことにより、周りに合わせて職業を選んでしまう子どもたちを自分の興味に合わせて職業選択をしてもらうためです。子どもたちが自分の適性を理解し、一人一人が自ら職業選択をするきっかけにしたいと思います。

本年は2回目の取り組みだったので昨年の問題点をいろいろと改善して実施することができました。本年のタイプ診断は昨年よりもスムーズに行うことができましたが、今後はタイプ診断を事前に行ってもらふことや、タイプ診断の内容を保護者にも伝えるなど、より良い形で実施できるようにしていきたいと思います。

お仕事タイプ診断は自分の無自覚な興味・関心を客観的に知るためのものです。お仕事タイプ診断を通じて子どもたちが特定の職業だけに興味をもつのではなく、自分の適性に合った職業を知ることによって視野を広げ、多くの職業について知ってほしいと願います。そこから、柏崎刈羽にある様々な職業に関心をもち、将来を考えるきっかけにしてほしいと願っています。

[illegible]

8 抽選会について

子どもたちがどの職業を体験するかについては、各ブースの体験人数の上限を設定し、各体験前に希望をもとにした人数調整を行い、体験人数の上限を超えた場合にはその都度抽選し、各ブースの体験者を決定するという方式をとっています。

- ① 参加人数の最終確認 → ② 体験人数上限の設定 →
③ 希望をもとにした人数調整（抽選） → ④ 各ブースでの体験

この方式は 2023 年より導入し、各体験の直前に 20 分程度で抽選を行っています。この方式を導入するに至った経緯は以下のとおりです。

まず、新型コロナウイルス禍以前は体験人数や体験時間を統一せずに実施しており、子どもたちが自由にやりたい体験を決めて楽しむことができる一方、人気のブースに子どもが集中していました。また、それぞれの体験時間が違うため、遊びの要素や楽しさを優先したブースも多く、「大人の想いにふれる」という目的が十分に達成される状況ではありませんでした。

次に、新型コロナウイルスの流行禍では、すべての体験を「事前予約制」および「体験人数上限に達したら締め切り」という方式での実施を試みましたが、事前に申込みの受付ができるため、当日に人気が集中することはないのですが、事前の申込み段階で落選してしまい、そもそも体験に来ない子どもが多数おり、申込みの少ないブースの運営には苦勞する状況がありました。

これまでの経験を経て 2023 年より導入した方式が、各体験の時間を 1 時間と設定し、全体の参加者数に応じて各ブースの体験人数上限を決定したうえで人数調整および抽選を行うという流れです。この方式のメリットは、各体験の人数を均等に割り振りできることと、各職業の大人の想いに十分にふれる機会をもてることですが、一人当たりの体験回数が 4 回と限られてしまことは残念なところです。

いずれも 100 点満点の方式ではなく、長所・短所がありますが、お仕事体験塾実行委員会としては「働く大人の想いにふれ、未来を創る人材を育てる」ためには、現状の抽選方式が一番であると考えておりますが、今後もより良い形で実施ができるように改善を続けていきます。



9 各ブースの当日の様子

調理師：THERE IS NOEND 様

柏崎市でとれる夏野菜をたっぷり使ったパスタづくりを体験しました。ミニトマトやナス、オクラ、玉ねぎ、ズッキーニのほかに、スーパーにはなかなか出回らない「カボッキー」というズッキーニのようなかぼちゃを具材に、ソースを作りました。夏野菜の甘味たっぷりのおいしいパスタを味わいました。

地元でとれた野菜を調理して、おいしく食べることは「地産地消」と言って、栽培している人とつながったり、どこで栽培しているかわかったりでき、食の安心・安全につながります。調理師で野菜ソムリエでもある中村さんは、地元野菜を使った料理やお弁当をたくさんの人に食べてもらい、柏崎を盛り上げたいと話していました。

中村さんはおいしいものを食べることが大好きで、子どもころから調理にチャレンジしてきたそうです。「自分の好きなことを仕事にすると頑張れるので、『将来の夢』に向かって、今から好きなことをやり続けていくことが大事!」と熱いメッセージを子どもたちに送ってくれました。



「パスタをもりつけるときは・・・」
「じゃうずにできるかな。」



「フライパンをふるコツは・・・」
「むずかしい～」

介護士：ツクイ柏崎新田畑 様

介護士のお仕事体験では、車椅子体験と認知症クイズをしました。車椅子では押すのも乗るのも想像以上に工夫が必要で、介助の大変さを実感しました。

クイズでは認知症の人の行動に対して、どのように接したらよいかなど、実際に考えて答える形式で楽しみながら学んでいました。体験を通して、介護士の仕事には思いやりと理解が欠かせないことをしり、日常生活での家族や友人との接し方を考える、とても貴重な経験になったと感じています。



介護士の仕事内容をパワーポイントを使って
勉強している様子



「車いすに乗るの初めてです。。」
「この乗り方でいいのかな？」

フローリスト：りとるがぁでん萌 flower & cafe 様

花は人の心に「うるおい」「いやし」「楽しさ」を届けてくれます。生花は、暑さに弱く、夏に飾るのはなかなか難しいです。そこで、生け花を乾かしてドライフラワーにすると、季節に関係なく楽しむことができるそうです。今年はドライフラワーを使って、壁飾り「ガーランド」を作りました。

ドライフラワーの色合いを見ながら、どこに何の花を入れていくか、バランスはどうしたらよいか、真剣に考え、世界でたった一つのガーランド作りに夢中になる子供たち。「かわいくできたね」「すごい集中力だったよ」とフローリストの中村さんから声をかけてもらいながら、楽しそうに取り組んでいました。

作り始めは不安そうだった子も、完成した時には満面の笑みで、作る喜び、やり遂げた達成感を味わっていました。お店では、お客さんと会話をしながら、お花を買う人、送られる人に喜んでもらえるようにお花を束ねているそうです。花を受け取った時の笑顔と「ありがとう」の言葉がやりがいにつながっていると教えてくれました。



ガーランドの作り方を説明している様子



お花を一つのガーランドにつなげている様子

建築士：新潟県建築士会柏崎支部 様

教室に入るとカラフルな家や、窓が大きな家、広い平屋など色々な間取りが家の模型が教室の中央に置いてあります。建築士さんのブースでは丈夫で長持ちで、地震に強いお家作りの説明から始まり、構造用紙を用いながら住宅の耐震性の説明をわかりやすく説明していただきました。

また、教室の後ろには中越地震や、能登半島地震の甚大な被害の写真や新聞記事などが並び、地震の多い地域で暮らすうえで災害に強い家づくりを日々研鑽している建築士の仕事に触れ、各々の子どもたちが選んだ住宅の模型をどうやったら地震に強いお家になれるんだろうと、興味を沸きながら楽しく作っている子どもたちが印象的でした。



「ここは、こうきるんだよ。」
「はい。やってみます。」



建物の構造についての説明を
しっかりと聞いている様子

医師： 柏崎中央病院 様

医師ブースでは、医療クイズに始まり、聴診器を使った模擬診察、点滴の実体験、心肺蘇生への挑戦など、子どもたちは次々と本格的な体験に臨みました。クイズを通して医療や地域医療に関心を持ち始めた子どもも多く、その後の体験をより真剣に取り組むきっかけとなったようです。

点滴体験ではうまくいかず悔しがる児童もいましたが「失敗しても大丈夫。挑戦し続ければ、いつかは誰でもできるようになる」と星山先生から温かい励ましがあり、子どもたちは真剣な表情で受け止めていました。体験前から「将来は医師になりたい」と意欲を語っていた子どももあり、体験を終え「体験できて本当によかった」と笑顔で話す姿が見られるなど、子どもたちにとって貴重な学びの時間となったことがうかがえました。

星山先生との会話、体験を通して子どもたちは医師の仕事の大変さややりがい、柏崎の医療現場の大切さを実感したようです。普段は気づきにくい医療の現場に触れたことで、地域医療について考えるきっかけとなり、地元・柏崎を見つめ直す大切な時間になったのではないのでしょうか。



「ここに針を刺すんだよ。」
「緊張します〜。」



順番に心臓マッサージを
している様子

ユーチューバー（動画クリエイター）：ダイスチャンネル 様

メインチャンネルの登録者数が25万人を超えるYoutubeクリエイターのダイスチャンネル様よりお越しいただき、Youtubeクリエイターとしてのお仕事内容の紹介ののち、動画を撮影し、講師の方の編集の様子を見ることで、ショート動画が出来上がるまでを学んでいただきました。

Youtubeクリエイターとして活動するうえでは、毎日継続して動画を投稿することが大事であること、講師の方がYoutubeへの投稿を始めたきっかけが、好きなことを動画にしたことだったため、子どもたちにも好きなことを突きつめ、続けていくことの重要性について、ご説明をいただきました。



1本の動画を作るために
何が必要かを説明する様子



実際の動画編集画面を操作して
編集の大変さを説明しています。

パティシエ：(有)綾子舞本舗タカハシ 様

「スイーツ&ベーカリー。人にやすらぎの時間と空間を。カフェのみりよくを伝えます！」というテーマで、ベーカリー職人やカフェの様子まで、幅広く学ぶことができました。地元を大切にする高橋社長の想いにも触れながら、「柏崎」と「お仕事」についても考える機会となりました。

パティシエのプチ体験では、オリジナルのカップスイーツを作りました。パティシエの実演を食い入るように見つめていた子どもたち。実際に体験することで、その技術の高さを実感していました。

美味しいスイーツを食べながらの質問タイムでは、「いくらで売ることができそうかな？」という逆質問に、「500円!」「800円!ちょっと高すぎるかな!？」と答えるなど、原材料費や人件費・利益など、会社を経営することにも目を向けて考えることもできました。自分の将来と職業を結び付けて考える時間となりました。



パティシエの技術を食い入るように見つめる子どもたち



「おいしいスイーツって、美しさも大事だよ。」
「どんなデザインにしようかなあ。」

自衛隊：自衛隊新潟地方協力本部柏崎地域事務所 様

自衛隊のお仕事体験では、ロープワーク、災害救助器材の紹介、手旗信号を体験しました。ロープワークでは実際に結び方を学び、災害救助器材の紹介では、実際道具を使って救助する方法を体験しました。

手旗信号では合図を送る難しさと面白さを感じていました。体験を通じて、自衛隊の仕事は人々の命を守る大切な役割を担っていることを学び、将来柏崎や家族を守ってくれる子が生まれるきっかけになったと思います。



「ロープはここをこう持って・・・」
「難しいんですね～」



手旗信号をみんなでやっている様子

保育士：新潟県保育士会 柏崎支部 様

「保育士のお仕事とは？」柏崎市で勤務されている保育士の方々から、保育園の様子やお仕事の内容をご説明いただきました。その中で園児たちと一緒にやる体操や、手遊びなどの紹介もありました。また、保育士さんが話す「仕事のやりがいや得られる喜び」についての話を興味深そうに聞いている子どもの様子が印象的でした。

体験後半では、おもちゃ工作や、制作物を用いたゲームを体験しながら、園児が楽しめるような工夫や知恵を学びました。紙芝居の体験では、保育士の方々が園児の興味を引くために場面をゆっくり抜いたり、少し抜いて間を取ったり、いろいろと工夫していることを学びました。

また、紙芝居を何度も読み込んで、子どもたちがお話の世界に入り込めるようにしていることも知りました。最後は保育士の方々に質問する時間が設けられ、新たな発見ができた貴重な時間になったと感じています。



保育園でしている体操を皆でしている様子



「上手にできたかな？」
「はい。上手にできそうです。」

電気事業：東北電力ネットワーク株式会社 柏崎電力センター 様

屋外の駐車場には東北電力さんの高所作業車、高圧応急用電源車、配電復旧支援車と、普段見ることがない車両がドーンと並んでいます。中でも配電復旧支援車は、災害現場での復旧指揮、情報収集、作業員の休憩スペースなど、長期にわたり復旧支援が可能な簡易生活機能を要した車両で、子どもたちは物珍しそうに乗車し、楽しんでいました。

高所作業車体験では、最大 15mの高さまでの作業が可能ということで、子どもたちからは高所に驚きながらも、電気を復旧するには様々な道具や車両が必要なんだ、という声が聞けました。今日の体験で普段当たり前に使っている電気の重要性を感じられたと思います。



高所作業車に乗る前の安全確認作業中
「これで大丈夫。」



高所作業車に乗って
高いところに移動している様子

ろうきん職員：新潟県労働金庫柏崎支店 様

お札の数を2種類教えていただき、サンプルのお札で数える練習をしました。また、本物の1億円と同じ重さのサンプルを持たせてもらいました。1千万円の束が10個で、全部で10kgでした。お金に関するクイズでは「1回の買い物の支払いで使える硬貨は20枚まで」という決まりがあることなどを学びました。

また「オンラインゲームで課金が必要になったときはどうするか？」などの問いについて、皆で考えることができました。もし困ったことがあれば、ろうきんさんに相談すれば味方になってくれると言ってくださり、心強かったです。

月岡さん、田邊さん、河合さんが普段心掛けていることも紹介していただき、「地域の方の役に立つために」という言葉が印象的でした。



「お金の数え方はね・・・」
「たくさん数えるの難しい・・・」



「これでいくらかな？」
「たぶん、10,000,000円！！」

自動車整備士：新潟県自動車整備士柏崎地域協議会 様

乗用車が毎年行っている整備点検について、ご説明をいただき、子供たちにエンジンオイル、ウォッシャー液の残量、ブレーキランプの点滅状況の確認、タイヤ交換などを体験していただきました。

体験のなかで、普段あまり見ることもないエンジンルーム内を見たり、運転席に座ってブレーキを踏んだりするなど、普段子どもがあまりすることができない経験をし、自動車の構造についても、学ぶことができました。体験を通じて、将来自分がなりたい職業につくために、学校の勉強も、スポーツも、一生懸命取り組むことが重要であるとのお話をいただきました。



子どもが点検をしている様子



「タイヤマスターおめでとうございます。」
「ありがとうございます！」

犬のしつけインストラクター：FUN-GOOD 様

犬のしつけインストラクターブースでは耳慣れない「しつけインストラクターの仕事とは？ドッグトレーナーじゃないの？」という説明から、クリッカートレーニングというものをやってみました。

人間同士でもクリッカーという器具を使って言葉なしでコミュニケーションを取る事の難しさや、犬になった気持ちで犬役をやってみたり、クリッカーの音だけで飼い主がやってほしいことを当てるクイズ形式でのデモンストレーションも行いました。

実際に犬を飼っている子どもから「犬をしつける楽しさを忘れていた。楽しくを大切に犬に接していきたい。」「犬に悪い子はいない。悪いのはしつけの仕方なんだと学びました。」など、よりよいしつけの仕方を学んだ様子でした。



犬のしつけインストラクターとは
どのような職業かを説明している様子



スクリーンを使ってみんなで
「犬の行動学クイズ」をしている様子

小中学校の先生：柏崎市立小・中学校 様

午前中は、音楽の先生になり切って合唱の指揮をしてみよう！という内容でした。そこでは、まず、市内の音楽の先生方がベートーベンの第九を見本として歌いました。子どもたちはその声量やクオリティの高さに惹きつけられていました。そして、こんどは自分たちが指揮を振る側に立ち、他の参加者と先生方を子どもに見立て、楽しそうに指揮を振っていました。

午後は算数の先生になりきって計算問題の解き方を教えよう！という内容と、体育の先生になり切ってニュースポーツのボッチャの楽しみ方を教えよう！という内容でした。先生という仕事が、こんなにも楽しくやりがいのあるものであることを実感した体験となりました。



「今日は皆さんに先生になってもらいます。」
「なにをするのかな。ワクワク。」



算数の先生になるために
必要なものを説明している様子

グラフィックデザイナー：小川 由紀子 様

グラフィックデザイナーの小川由紀子さんからグラフィックデザインとはなにか？を簡単に教えてもらってから、自分の名前を元にロゴを作ってみる体験を行いました。まず自分の好きな事やイメージ、好きな色などを書き出してから、それをデザインに落とし込む作業に進みます。みなさん豊かな発想力を存分に発揮して、世界に一つだけのロゴを作っていました。

ロゴが完成したらキーホルダー作りにもチャレンジ。ロゴをトレーシングペーパーに写し書きして、レジン液を使ってスパンコールやラメを散らして素敵な作品を作りました。東京で活躍していた小川さんがふるさとに U ターンしたことなどもお話いただきました。



手に取りたくなるパッケージデザインを作る方法を説明している様子



自分オリジナルのデザインを実際に作っている様子

庭師：(有)小池造園 様

小池さんは庭を見るだけでどの時代の庭なのかが分かるそうで、世界や日本の庭を紹介してくださいました。柏崎は全国的な庭師が出ている土地だそうです。講義の後は、庭に欠かせない「縄」の結び方の中から、実際に真結び・男結びを練習しました。難しかったですが、小池さんが何度も丁寧に教えてくださり、なんとか結ぶことができました。

庭とお茶は深い結びつきがあって、貴重な茶器でお茶とお菓子をいただきながら、お茶の作法も教えていただきました。庭の奥深さの一部を学ぶことができ、子どもたちは庭師のお仕事にますます興味を持っていました。



「ここに結びをつくるんだよ。」
「わかりました。やってみます。」



「このなわの結び方は・・・」
「なるほど、そうするんですね。」

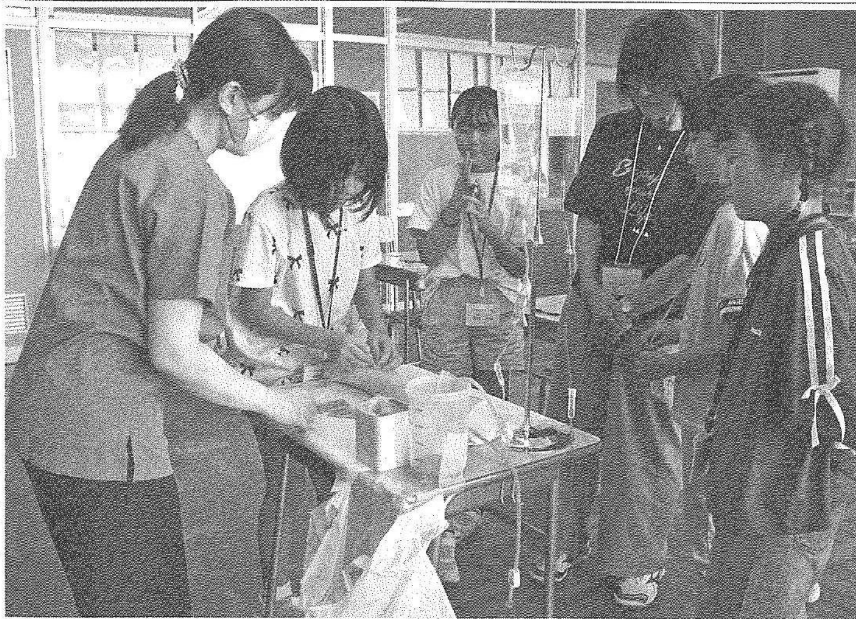
◆報告記事

日 報

2025年(令和7年)8月27日(水曜日) (日刊・夕刊)

(2)

働く思い、未来へつなぐ

お仕事体験塾
16ブースに小学生

午前・午後16ブースが設けられた「お仕事体験塾」。この一つ、医師のブースでは点滴の体験もした。24日 一中

柏崎で働く大人の思いにふれ、未来の自分を考えてみようという「お仕事体験塾」(同実行委員会主催、田中有人委員長、委員数15人)が24日、一中を会場に開かれた。午前、午後16のブースが設けられ、事前に参加を申し込んだ小学生102人が仕事の楽しさ、やりがいなどにふれた。

同実行委員会は2019年まで6回、アルフォーレで小学生を対象に「お仕事体験塾」を開き、子どもたちに柏崎で働く大人の思い、生き方を学ぶ機会を設けてきた。新型コロナウイルス感染症では動画、オンライン配信を経て、22年から対面で実施している。今年も抽選で午前2回、午後2回の体験をしてもらうやり方にした。

このうち、電気事業のブースでは、高所作業車で地上13メートルの試乗体験をした。刈羽小4年・加藤葵君は「高くて怖かったけれど、こういう仕事をしている人はすごいと思った。電力関

係の仕事に興味があった。初めてブースを設けた東北電力ネットワーク柏崎電力センターの清和勝幸所長(53)は「発電から家庭まで届ける過程、保守・保安の業務を知ってもらえたらいい。将来、職業を考える際の参考にしてもらいたい」と見守った。

医師のブースでは、診察、点検、心肺蘇生の体験に取り組んだ。柏崎小4年・仲野希映さんは「点滴がうまくできて良かった。人の病気を治す仕事に興味が増した」と笑顔。星山彩子・柏崎中央病院副院長(47)は初めての試みとして、医療に関するクイズなども作った。

「みんなが真剣に取り組んでくれた。クイズに興味を持ってもらい、医師になりたいという子どももいて、頼もしく思った」と話した。自衛官のブースでは、本部柏崎地方事務所の曾我匡所長(55)は「普段の仕事の一部ではあるが、自衛隊がどんなことをやっているかを知ってもらいたい」と期待をかけた。めつたにできない体験に、横原小5年・江口和さんは「ロープ結びは難しかった。でも人を助ける仕事に就いてみたい」と晴れやかだった。

パティシエのブースでは、市内原町、綾子舞本舗タカハシ(高橋亮巳社長)の菓

子職人・北沢拓巳さん(24)が米粉・フォンのガラス・スイーツの作り方を伝授。比角小6年・松本遼君は「パティシエの仕事は楽しそうというだけでなく工夫を凝らした。高橋社長(63)は、お菓子は気持ちを豊かにでき、楽しい食べ物として子どもたちに伝えたい。世界に一つだけの作品として体験を通して感じてもらうといい」と笑顔で話した。

主催 | 〇仕事体験塾実行委員会 後援 | 柏崎市教育委員会/〇羽村教育委員会/柏崎日曜校/FMピカパ

柏崎の〇仕事体験は、(1)生涯学習型教育体験機構より実施を受けており、(2)関係機関との共同実施が行われており、子どもも家庭に引き続いて個人授業(平日)・(土)日・国定休日を教員総務職員が担当する個人授業の活動に準じた内容に基づき、子どもも家庭に継続参加による効果に活用されます。

体験の場をおこそう

<https://doi.org/10.1016/j.jmb.2023.107700>

【1】参加児童の回答結果（有効回答数：101）

① 今回の体験の満足度を教えてください。

大変満足	満足	普通	不満	大変不満	無記入
69 名 (69%)	21 名 (21%)	4 名 (4%)	0 名 (0%)	0 名 (0%)	7 名 (7%)

② 今回の体験で将来役に立つことができましたか。

たくさん あった	あった	普通	なかった	全く なかった	無記入
54 名 (54%)	25 名 (25%)	15 名 (15%)	0 名 (0%)	0 名 (0%)	7 名 (7%)

③ 体験前と体験後で気持ちに変化はありましたか。

あった	なかった	無記入
51 名 (51%)	37 名 (37%)	13 名 (13%)

④ 将来柏崎刈羽で働きたいと思いますか。

とても 働きたい	働きたい	どちらでも ない	あまり 働きたくない	働きたくない	無記入
37 名 (37%)	27 名 (27%)	25 名 (25%)	4 名 (4%)	1 名 (1%)	7 名 (7%)

【 実行委員会 考察 】

本年は例年通り、「いろいろな職業に就いている大人の思いに触れることで、勤労観・職業観について学ぶことと、楽しいだけではなく学びある時間にする中で、自分の将来について考える機会を提供すること」を主眼に置いての開催とさせていただきました。

本年特筆すべき事柄として、まずは「アンケートの回収率がとても高いことと、これまで以上に子どもたちの作文のレベルが高くなっている」ことが挙げられます。これまでアンケートなどを行ってきた中で1番質が高く、一つ一つの回答がしっかりと記述され、学年は変わっていないにもかかわらず、明らかに学習レベルが上がっています。

また、感想文などからは子どもたちは柏崎で働くことに興味を持つようになっており、お仕事体験塾の目的である、柏崎刈羽に愛着を持たせ、将来の柏崎を作る人材を育てることに對して、大きく寄与できていると考えています。

今後も子どもたちが将来の選択肢をより広く持ち、日々の学習意欲の向上と、職業選択の一助になりながらも、柏崎を愛する心を子どもたちと共有できるように本事業を継続していきたいと考えています。

【2】参加児童の保護者の回答結果（有効回答数：43）

① 「柏崎お仕事体験塾」はお子様の将来に役に立つと思いますか。

役に立つ	どちらともいえない	役に立たない
41 名（95.3%）	2 名（4.6%）	0 名（0%）

② 「柏崎お仕事体験塾」は柏崎市・刈羽村にとって価値ある事業だと思いますか。

価値ある事業だと思う	どちらともいえない	価値ある事業ではない
43 名（100%）	0 名（0%）	0 名（0%）

③ 「柏崎お仕事体験塾」の体験前と体験後で、お子様の様子に変化はありましたか。

あった	なかった
25 名（58.1%）	18 名（41.8%）

④ 子どもたちに将来柏崎市、刈羽村で働いて（生活して）欲しいと思いますか。

働いてほしい	どちらともいえない	働いてほしくない
16 名（37.2%）	26 名（60.4%）	1 名（2.3%）

【 実行委員会 考察 】

昨年に続き 2 回目となる保護者アンケートを実施させていただきました。本アンケートを実施している趣旨は、本事業に子どもたちが参加するためには、保護者の皆様からの賛同をいただくことも非常に重要だと考えたからです。

昨年のアンケート内容を受けて、本年は様々に運営内容をかえさせていただきました。チラシに送迎だけでよいことを明確にする。駐車場誘導の配置。受付をわかりやすくするなど、皆様のご意見を取り入れての運営とさせていただきました。

また、アンケート結果からは保護者の皆様からもお仕事体験には大きな価値を感じていただけており、今後もより子どもたちにとって役に立つ事業、将来のためになる事業にできるように努力を続けていきたいと思えます。

本事業を体験した子どもたちは親御さんの目に見えて変化があった子供が約 6 割となっており、「帰ってきてから将来のことを話すようになった」「なりたい職業の幅が広がった」などと、前向きなお言葉もいただいております、参加した子どもたちがお仕事体験に参加することでよい影響を受けているのではないかと思います。

本年も様々なご意見をいただきましたので、今後もお仕事体験塾をよりよい形で実施するために、改善を重ねていきたいと思えます。

【3】協力事業所の回答結果（有効回答数：15）

① 今回の体験の満足度を教えてください。

大変満足	満足	普通	不満	大変不満
10 名 (66.6%)	4 名 (26.6%)	1 名 (6.6%)	0 名 (0%)	0 名 (0%)

② 将来役に立つ体験をさせてあげられましたか。

大変あった	あった	普通	なかった	全くなかった
6 名 (40%)	7 名 (46.6%)	1 名 (6.6%)	1 名 (6.6%)	0 名 (0%)

③ 体験前と体験後で子どもの様子に変化はありましたか。

あった	なかった
15 名 (100%)	0 名 (0%)

【 実行委員会 考察 】

協力事業所のみなさんのアンケート結果をみると、昨年同様高い満足度となっており、現在の抽選会方式を導入したおかげで各体験に子どもたちが均等に割り振られる仕組みは事業所の皆さんにとってもよい形式になっているのではないかと考えています。

しかしながら、実行委員会は事業所の皆様には未来の柏崎を創る人材を育てることを目的として活動をしていることは伝えてきておりますが、実際の出店してくれる皆さんが「何のためにお仕事体験をしているのか？」をより明確にすることで、より満足度が向上するのではないかと考えています。

本事業は出店者の皆さんなくしては成立しない事業であり、出店事業所の皆さんが本事業への出店に対し、毎年変わらず、または毎年より深く本事業を愛してもらうために、より明確に出店者の皆さんと実行委員会の気持ちを共通のものにしていけるような新たな取り組みも取り入れられれば良いと思っています。

来年以降もお仕事体験が参加する子供たちにとって良い事業となるだけでなく、柏崎刈羽の事業所の皆さんからもより愛される事業にするために、実行委員会一同とりくんでまいります。

お仕事体験塾は実行委員会が設立してからこれまで本当に様々なことを乗り越えて継続して行うことができました。本事業は保護者の皆様や教育関係の方、出店事業所の皆様からのご理解をいただきながら行うことが重要であるため、毎年アンケートなどでご意見をいただきながら改善を続けてきております。

また、本年の新たな取り組みとしては保護者ボランティアを募集し、一緒に事業を作っていただきました。初めての取り組みのため改善点は多くあるものの、多くの保護者の方からご賛同いただき、今後も改善をしながら継続して実施していきたいと思っています。

地域の大人たちが連携して勤労観・職業観を子どもたちに伝えることで、子どもたちには「柏崎刈羽で働きたい」「柏崎刈羽の役に立ちたい」と、働くことへの意欲と社会貢献への心が間違いなく育まれています。

本事業を通じて地元で働く大人の後ろ姿や仕事への自信、やりがいを伝えることは、「ぼくの町にはこんなすごい大人がいるんだ」「わたしもこんな仕事に就きたい」と、**柏崎刈羽に愛着と誇りを感じ、未来の柏崎を創る子どもたちの柏崎愛・刈羽愛**につなげると同時に、「好きな職業に就きたい」「地元で働きたい」という気持ちが育つことを願っています。

お仕事体験塾実行委員会

実行委員長	田中 有人				
実行委員	猪爪 拓也	岩間 一博	小田麻由美	小野 和也	
	岸 剛史	近藤多計夫	清水 淑子	須田 有希	
	種岡 和人	永井 勇也	前澤佳奈子	山田 智	
	山田 大介				

(以上 14名)

私たち実行委員会は「お仕事体験塾」の活動を通して子どもたちが郷土に愛着と誇りをもち、働くことの意味を実感し柏崎刈羽の未来を創るすばらしい人材となってくれることを願っています。この報告書をもとに「お仕事体験塾」を発展、進化、継続させていくことができるようお願いながら、今後も活動が続けてまいります。